

第2回瀬戸市小中一貫校施設整備委員会会議録

▽日時

平成28年11月7日（月）午後3時00分から5時15分まで

▽場所

瀬戸市文化センター31会議室

▽出席者（順不同、敬称略）

【瀬戸市小中一貫校施設整備委員会委員】

木村光伸、鈴木賢一、岡村肇、加藤和久、小澤勝、高島知久、水野富士夫、右高恭子、加藤和守、矢野桂子、加藤吉明、宮村恵美子、加藤高明、深見和博、牛田和彦

【市】

教育部長 加藤都志雄、経営戦略部長 加藤慎也、経営戦略部参事 涌井康宣、学校教育課長 鈴木勝広 ほか

▽議題等

1 委員長挨拶

2 議事

- （1）小中一貫校に係る各種情報の共有について
- （2）本年度のスケジュール（案）について
- （3）アンケート調査概要（案）及びワークショップ概要（案）について
- （4）飛島学園の視察結果について
- （5）小中一貫校などに係る課題抽出（心配ごとなど）について
- （6）各地区やPTAなどに対する意見交換会の進捗状況について
- （7）その他

▽議事内容

1 委員長挨拶

瀬戸市の小中一貫教育のあるべき姿が、今回のケースがモデルとなって全体に浸透していくようにしたい。一貫校と言っても、施設をどのように一体的に利用するのか、教育内容の一元化の手法や、小中の連携方法など、整理しなければならない課題は多様にある。また、英語教育の小学校高学年での必修化に向けた対応も進めなければならない。一方で、これまでの学校での取り組みや地域との連携についていかに整合させていくのか。今回のモデル校以外では、どのような小

中一貫教育がなされ得るのか。いかに、市域に渡って等しく小中一貫教育の水準を高めていくのか。様々なことを考えていかなければならない。反面、来年の3月まで文部科学省へ取り組みの成果を報告しなければならないという期限もある。予定している開校時期を見据えながら、自由な議論の中で結論を出していきたいと考えている。

本日は多くの方に傍聴に来ていただき、大歓迎する。傍聴の方々には、本委員会での議論に直接参加していただくことはできないが、いかに学校づくりが進んでいくのか、しっかりと見据えていただき、瀬戸市全体の議論につなげていっていただきたいと考えている。

2 議事

(1) 小中一貫校に係る各種情報の共有について

前回委員会の振り返りとポイントの整理に続き、

【資料 1-1】瀬戸市教育アクションプラン概要版

【資料 1-2】開校を予定している小中一貫校について

【資料 1-3】瀬戸市小中一貫教育に関する基本構想及びリーフレット

【資料 1-4】Q & A

【資料 1-5】瀬戸市教育市民フォーラム

について、事務局より説明。

委員 以前は6・3制になると聞いていたが、【資料 1-3】では、4・3・2制となっている。また、最後の2年は、進路指導の充実が掲げられており、受験対策に傾倒した2年と位置付けられているように感じられる。

委員長 まず、小学校課程6年、中学校課程3年ということについては、現行法上変更はない。ただ、現代の子どもの発達段階との差異が生じてきているという議論があり、義務教育課程を4・3・2年に区分して対応するという考え方がある。特に後期2年は義務教育課程の仕上げの時期ということもあり、進路指導も避けられない時期となる。瀬戸市は特にキャリア教育に充実させており、そういったものもベースとしながら、将来を見据えた進路指導の時期ということで考えているのだろう。

また、現在は小学校の6年間が学級担任制で、中学校が教科担任制で行うことが一般的となっているが、中期過程において、小中の教員が相互乗り入れでの授業を行うことによって、それぞれの学習形態を円滑に

接続させていく目的がある。前・中・後期と区分はあるものの、9年間を見通した教育課程という部分が大事で、それぞれの学年において学習指導要領に基づいた教育を行いながら、成長の度合いに合わせ、1年1年を子どもたちにどのように過ごしてもらおうのかというところが大切になってくる。

委員 反対に後期の2年ではなく、中1の段階から進路指導すべきと考える保護者の方もいるのではないかと。また、小中一貫校以外での小中一貫教育について、保護者の間では市の取り組みが浸透しておらず、意識向上のためにも、更に周知を図っていくべきと考える。後の議題になるかもしれないが、アンケートが計画区域外の対象者は教員までとなっているので、市全域での未就学児の保護者までを含めたアンケート・周知が必要なのではないか。

委員長 アンケートについては後ほどとさせていただくが、この会議体は本件モデル校について議論する場であり、市の小中一貫教育の在り方を議論する場ではないことをご承知いただきたい。モデル校での取り組みと、その成果を他の学校に広めていくかということも大切であるということは認識しなければならないが、今年度この委員会に付託されていることは、モデル校の構想と、地域との合意形成が一番大事な部分である。

また、進路指導の区分についても、高等学校進学だけの進路指導ということではなく、時期や個人にとってどのような指導が適切なのかを踏まえて進めるということは当然で、この表の区分については、その時期にしかその指導は行わないというようには見ないでいただきたい。

副委員長 全国には施設分離型で小中一貫教育を実施している事例が多くあり、他の既存校の校舎を利用して、いかに一貫教育を進めていくかを協議する場というのはいずれ必要になってくる。本会での議論が先行していくことになるが、モデル校が他校の一貫教育の牽引役になっていくと考えられる。

(2) 本年度のスケジュール（案）について

【資料2】瀬戸市小中一貫校施設整備委員会等のスケジュール（案）について、事務局より説明。

委員長 一番大切なのはワークショップでの議論であり、その内容によって検

討すべき項目も変わってくるかもしれない。

委 員 市民参加のワークショップなど、今後の議論を深めるうえでも、前提条件となる計画の市民周知が重要である。本日配布されている小中一貫教育の基本構想やパンフレットなど、いかなる方法で市民や教員に周知していくのか伺いたい。

事務局 市ホームページへの掲載も行うが、今現在、地域での説明会など、機会のあるごとに配布させていただいている。また、校長会でも配布しており、市内各校への情報提供も随時行っている。

委 員 これからの協議には、より地域の方やP T Aなども参画していくことになっていくが、実際に地域ではどのような感覚で現計画を受け止められているのか伺いたい。

事務局 後ほど議題6で触れることになりますので、その際に、委員である各自治会長さんから説明をお願いしたいと思います。

委 員 地域では、小中一貫校と聞いて、様々な情報や憶測での議論がされている。正確な情報の周知を更に図っていただきたい。

(3) アンケート調査概要(案)及びワークショップ概要(案)について

【資料3-1】小中一貫校の新設などに関するアンケート調査について(案)

【資料3-1-1】アンケート調査票保護者版(案)

【資料3-1-2】アンケート調査票教員版(案)

【資料3-2】小中一貫校に係るワークショップについて(案)

について、事務局より説明。

委 員 アンケートの対象者に対象校児童生徒の保護者と未就学児の保護者とあるが、それぞれに兄弟姉妹がある場合、一世帯に複数の調査票が届かないようにしていただきたい。

事務局 対応する。

委 員 子どもたちにより良い教育環境を提供するというのが目的だが、アンケートの設問が、最初に心配事から始まり、機能、施設について伺っていく構成になっており、選択項目についても、細かすぎるし、もっと前向きな設問となって良いのではないか。9年間を楽しく過ごせる学校とか、周辺の自然環境を活かした学習など、選択肢としてあっても良い。
また、小中学生間の交流や、地域の方との交流についての選択肢もあ

るが、どのレベルまで重点を置いて、屋外屋内にどれくらいのスペースが必要と考えるか。これだけ歴史のある学校が一つになるということで、各校の文化をいかに残していくかなど、市民の思いを把握したいことは多くある。

委員長 委員の意見を踏まえ、もう少しアンケート全般を整理する必要があるのかもしれない。私も、選択肢の記載順についても分かりにくいと感じるし、選択項目の中でも同じような意味に感じられるものがある。

委 員 このアンケートを保護者の方が見て、心配ごとを問う設問が一番にあることで、どんな印象を持たれるだろうかと思うところがある。

また、瀬戸市には品野台小学校という環境に配慮し、フリースペースや多目的広場も配置した先進事例がある。そこでの課題も含め、きちんと総括を行い、アンケートの結果と併せて検討する必要がある。

委員長 心配ごとが最初に来ていることについては、いろいろ受け止め方もあると思うが、一旦事務局で整理してもらおう。また、品野台小学校の検証は必要なことだと考えており、教育委員会での検証結果のまとめをお願いしたい。

委 員 問5の10番の既存校の歴史と伝統が途絶えるという表現は、新設校が伝承していくはずのものであり好ましくないと考える。また、アンケート結果についてはどこまで明らかにしていくのかということと、教員向けのアンケートの対象者は学校の四役だが、四役に10年以下の勤務年数の方がいるのか。

委 員 四役に10年以下の者はいる。私の意見としては、四役以外のもっと若い先生の意見も聞いてみたいという思いがある。

委員長 若い教員の声を聞きたいという意見はよくある。そのような教員にアンケートに答えてもらうとすると、学校でその教員を選択してもらうことは可能か。

委 員 可能である。

委 員 教員全員にアンケートをとっても良いと思う。瀬戸市の教員全員に小中一貫教育の構想など、関心を更に深める意味にもなる。また、私も選択項目の統一性が無いように感じる。特に、問8については、設問の時点が分からない。開校に向けてのことなのか、開校後も含めてのことなのか。

事務局 開校までのプロセスのことである。

委 員 アンケートが基本構想とリンクしているのであれば、他の設問項目とは異質なものを感じる。また、小中一貫教育の構想には、食育が示され

ているが、設問にはない。逆に内容を詰め込みすぎているのではないか。

委員長 教員には抽象的でも良いと思うが、保護者の方にはあまりに抽象的であると答えにくい面もあり、アンケートの設問がそれぞれ違うのも分析しにくい。選択肢が多すぎて、答えにくいということもあり、いろいろな意見を整理していきたい。教員向けのアンケートは、全員でも良いのではということもあったが、作業部会のメンバーでも議論したい。

次にワークショップに議論を移していく。

委員 ブレインストーミングの手法で進めるのか。また、正副委員長はメンバーにあるが、私たち他の委員も見学に行くことは可能か。

委員長 見学に来ていただくことは可能。我々も議論に入るものではなく、また、進行も学生にお願いするということで、議論の流れを見せていただくだけである。

副委員長 名古屋市立大学が運営を行い、私の研究室の学生をファシリテーターとして進めていく。まずは、ブレインストーミングのような形で自由な議論を展開していきたい。進行の度合いを確認しながら、手法についての再検討もあるかもしれない。

委員 教員が7名は少ない気がする。

委員 教員の人数が多すぎると、保護者や地域の方が意見を出しにくいかもしれないので、この構成で良いのではないかと考える。

委員 メンバーの構成はグループによって違うこともあるだろうし、若い先生の意見が聞きたいという思いもある。

委員長 教員の意見というのは他よりも重く評価されることがある。このグループ構成は事務局によるものか。

事務局 バランスや議論のしやすさなども含めて検討した。違った立場の方が集まって、自由に議論し、課題や夢を議論するというのが目的である。教員の方には、この基本構想を検討する段でも主に協議いただいており、ワークショップを重ねる中で、より議論を活発にするためにメンバー構成を再検討することもあると考えている。

委員長 このワークショップは来年度以降も引き続いていく。また、このワークショップは意思決定の場ではないので、まずは、この形で進めさせていただきたい。

(4) 飛島学園の視察結果について

【資料 4】により、9 月 7 日に委員と事務局にて訪問した飛島学園の視察結果について、事務局より説明。

委員長 小中一貫校の先進事例として、委員の皆さんにも飛島学園を視察していただいた。飛島村と瀬戸市では様々な環境や条件が違うため、飛島の事例に捉われすぎないように、全国の事例の良いところをしっかりと活かしていきたい。

(5) 小中一貫校などに係る課題抽出（心配ごとなど）について

これまでの P T A や地域等への説明会や校長会、作業部会において示された要望・意見・心配ごと・アイデアなどについて分類整理し、また、開校までのスケジュールに沿って再整理した【資料 5】、【資料 5-1】に沿って、事務局より説明を行った。

委員長 スケジュールのイメージを見ていただくと、本年度に整理しなければならない課題が多い。P T A や地域との合意形成を図らないと次の段階に進めないわけで、その取り組みを文部科学省からも求められており、アンケートやワークショップでの議論を整理したうえで、関係者との対話につなげていきたい。

委 員 建設予定地は祖東中学校の敷地も含まれる。着工予定の平成 30 年度に祖東中学校はどうなるのかということが大きな問題になっている。東公園敷地内のみで工事が行われるのであれば問題ないが、運動場が使えないとか、校舎の一部が工事の影響があるということであれば、早い段階で計画を示し、その対策を示さなければならない。

委員長 開校まで祖東中学校は存続するということが前提であるが、着工期間においても、教育には支障がないということも示していかなければならない。

委 員 祖母懷連区に新設校ができるということであるが、計画地に入るまで工事車両の進入路がない。以前、祖東中学校の校舎の一部解体工事を行った際にも 10 t 車で廃材を出そうとしたが、地元の反対で 4 t 車で搬出を行ったということがあった。10 t 車が通行できる進入道路の新設は地元全体の要望である。

委 員 学校名や校歌などについて、いつごろ決定していくものなのか。また、

保護者や地域の人も参加する運動会などでは、運動場や駐車場などかなりの面積が必要になると思うがいかがか。

委員長 校名校歌など、これまでの既存校のものをどうするのかということは、今後、地元の意見をよく聞きながら決めなければいけない。新設校についても、方法も含めて今後決めていくことになる。運動会などの行事運営については、小中合同でやるのか別にやるのかの検討も必要であるが、当初のプログラム作りは開校の1年半くらい前からの作業になると思う。

工事の話もあったが、市の方でお話しできることはあるか。

事務局 工事について現時点で示せるものはない。ただ、着工の前に地域の皆さんには工事の詳細をお示ししたうえで、了解を得なければならないと強く認識している。

委員 PTAの方でも主体的に関わっていかなければならないと考えている。このスケジュールイメージの中でPTAは何ができるのか真剣に考えていきたい。通学中の事故については、ニュースでも多く取り上げられており、特に周辺道路の整備や、通学の安全については、ハード・ソフト両面でできることをやらなければならない。もう一つ、将来世代に負担にならないように、ランニングコストの低減も考えた学校になって欲しい。

委員長 様々な立場から要望もありましたが、教育長始め事務局もしっかりと受け止めていただきたい。

(6) 各地区やPTAなどに対する意見交換会の進捗状況について

【資料6】により、各地域やPTAなどとの合意形成に向けた説明会や意見交換会等の開催状況を、事務局より報告。次に、各自治会長より、各地区の状況報告が下記のとおり行われた。

委員 深川連区については、全戸配布にてアンケート行っている。その結果を踏まえ、11月17日に町内会長、PTAなど各種団体長に参加いただいて、地区の準備会を開催する。5年10年先のまちづくりも見据えた委員会として、継続して開催していきたい。

委員 古瀬戸連区は、まだ具体的に検討していないが、学校・PTA・自治会で意見を交わして、一步一步進めていきたい。

委員 東明連区については、7月に地区で準備会を設けて、8月に2～3町内単位での意見交換会を行った。様々な課題が抽出されたが、その回答も含め、10月末と11月頭に、再度、説明会を行ってもらった。また、準備会については、正式に地区の協議会として、10月には自治会の正式承認を得ている。メンバーは、東明小 PTA、祖東中 PTA、古瀬戸保育園の保護者会、公民館、婦人会、地域力などの皆さんとなっており、教育環境委員会、跡地整備委員会を設けて、総勢 30 名ほどである。第 1 回目の議事の内容についても、組回覧で地域に配布しており、第 2 回以降も、地域内での合意形成と意見集約を図っていききたい。

委員 祖母懷連区は、学校新設予定地であり、10 月末に地域の意見集約を行った。ダンプの進入経路など、工事中の通学の安全に不安を感じているところがあり、協議にも一番時間を割いた。県道 33 号線から直結する道路新設を始め要望をまとめ市長に申し出る予定でいる。また、小学校跡地利用については、協議会を設置し、検討を進める予定である。

委員長 各地区での課題を、真剣に検討していただいている。PTA さんの意見集約も進め、市の方もしっかりと対応していただきたい。また、道泉連区との協議も早急に進めていただいて、何らかの方策があれば、委員会の方もお手伝いさせていただきたい。

(7) その他

議事なし

3 その他

事務局より、次回の開催予定（12 月 22 日（木）午後 3 時から 瀬戸蔵 4 階多目的ホール）の連絡を行った。

以上